

## プロジェクト 持続可能な畜産を支える草づくり

## 目 標

- ・二毛作栽培による自給飼料の収量  
R4：3,760kg/10a（青刈りとうもろこし）→ R10：5,800kg/10a（青刈りとうもろこし+ライムギ）

## 挑戦する内容

- ・ライムギと青刈りとうもろこしの二毛作栽培実証
- ・公共牧場の利用体制強化
- ・もみ殻のマッチング体制整備
- ・稲わら・もみ殻等の未利用資源の広域流通体制の確立

関係者の声  
＝対話

- ・牧草・稲発酵粗飼料（稲WCS）・稲わら等の自給飼料生産を支援してほしい（畜産団体）
- ・粗飼料と敷料の確保に苦労しているためマッチングしてほしい（生産者）
- ・県南地域の畜産堆肥と津軽地域のもみ殻等について、耕畜連携による効率的な運送体制をつくってほしい（畜産団体）

## 役割分担

- ・生産者・コントラクター組織：二毛作栽培
- ・畜産団体・市町村：情報提供、情報周知
- ・産技センター：現地指導
- ・県：実証試験、もみ殻のマッチングリスト作成、実演会・研修会開催

## 変革後の姿

- ・二毛作栽培体系の普及により自給飼料が増産され、持続可能な畜産が確立
- ・津軽と県南地域でのもみ殻等の広域流通体制が確立

## 令和6年度計画

## 挑戦する内容

- 1 ライムギと青刈りとうもろこしの二毛作栽培実証
  - ・粗飼料の新たな栽培体系を実証（コントラクター組織に委託）
- 2 公共牧場の利用体制強化
  - ・公共牧場の未利用草地における飼料供給体制の実証
- 3 もみ殻のマッチング体制整備
  - ・もみ殻のマッチングリスト作成に向けたアンケート調査の実施
  - ・もみ殻利用に係るマッチングの実施
- 4 稲わら・もみ殻等の未利用資源の広域流通体制の確立
  - ・もみ殻、稲わら、稲発酵粗飼料（稲WCS）等の輸送実態調査を実施し、効率的な輸送方法を検討（調査会社に委託）



二毛作ほ場でのライムギ収穫作業



もみ殻の効率的な輸送実証

## 対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を事業構築に反映（8月、1月）
- ・二毛作の実演会・研修会を開催し、実証内容を広く周知するとともに、関係者の意見交換の場を設定（5月）
- ・公共牧場における飼料供給体制の実証について、市町村や関係機関等と定期的に進捗状況や作業スケジュールを確認（6月～9月）
- ・畜産農家・耕種農家の意見を聞き取り、もみ殻のマッチングリストを作成（通年）